

第34回学会大会 “ワークショップ企画 ～その3～”

ワークショップグランドコーディネーター

鈴木 秀 雄

ワークショップは、研究交流および教育交流活動を活発にする試みとして、第32回学会大会(会場：大分大学)で、初めて学会大会開催と共に、①セラピューティックレクリエーション分科会；②景観・造園・環境系；③レジャー・レクリエーション産業系；の3つのワークショップが企画され、各々のテーマは、①「それぞれの専門領域からスポーツをどう捉えるか」；②「地域のアウトドア・レクリエーションと資源空間の管理」；③「ワールドカップを総括する」；という内容で開催された。初めて企画されたワークショップであったが、多くの会員の熱心な参加により、いずれのワークショップも盛会で、多くの意見交換や情報交換がなされ、十分な研究成果をあげ、成功裡に開催された。

現在、分科会は、セラピューティックレクリエーションの分野のみであるが、今後、各分野においても専門分科会への移行が論議された。活性化を意図して企画された一昨年のワークショップであり、学会発展の一翼を担う形態へと昇華するねらいから、昨年の第33回学会大会(会場：東北福祉大学)では新企画の地域研究が加えられ、引き続き前述の3つのワークショップも開催された。

本年の第34回学会大会(会場：立教大学)では、会員の応募も受け、グランドコーディネーターおよび①セラピューティックレクリエーション分科会の話題提供者として学会副会長の鈴木秀雄(関東学院大学)がつとめ；②「景観・造園・環境」「レジャー・レクリエーション産業」系は、合同開催として学会常任理事の嵯峨寿(筑波大学)、栗田和弥(東京農業大学)がコーディネーターをつとめる。また会員の応募によるワークショップ③テーマ：個別プログラムとケースワークの実践〔コーディネーター(吉岡尚美(東海大学))〕も開催される。

昨年と同様、第1日目の地域研究「テーマ：都市レジャーの今昔」に続き、第2日目の12月4日(土)のパネルディスカッションの後に、これらのワークショップ(16:40~18:30)が、3つのグループに分科され、同時進行で約2時間にわたって実施される。

以下は、それぞれのワークショップの内容である：

ワークショップ① 《セラピューティックレクリエーション分科会》

テーマ：『要介護予防運動指導におけるセラピューティックエクササイズの意味と意義
～今年度(2004年)から始動した要介護予防運動指導者養成及び指導者資格認定制度をめくって～』

話題提供者：鈴木秀雄(関東学院大学人間環境学部教授、Ph. D.)

(財団法人日本スポーツクラブ協会(JSCA)要介護予防運動指導者資格認定講習会ジェネラルディレクター及びJSCA要介護予防運動指導認定委員会委員長、同協会評議員)

■趣 旨：

科学的な効果を明確・確実に求める治療、療育、療法の領域であるセラピーと余暇における自発的で自主的・能動的な活動・状態としての領域に位置するレクリエーションが、それぞれの